

第7回 熊本市街路樹再生計画策定委員会 議事録

日時	令和4年(2022年)5月26日 10時00分~11時40分
場所	桜の馬場城彩苑 多目的交流施設
出席委員	別紙(配席図)のとおり

議事要旨

事務局	議事 第6回委員会の振り返り ①市民ワークショップの状況報告(3/13、5/14)
田中議長	11月委員会からの振り返りをしてもらってよく理解できた。ピンクテープから始まり、再生を考えていく上では切るだけではなく、補植をしたりどういう基準でやっていくのかという議論をする必要があった。特にうれしかったのはワークショップができたこと。市長も市民と一緒に考えていくと強調されていた。緑化フェア(花博)の間にも一度できればよかったが、開催直前と直後になってしまった。市民ワークショップでは色々な意見がでて、同じ緑なのだから街路樹と公園と庭木など、どの緑も繋がっているというようなグリーンインフラの考え方をさせていただきたいということだった。緑化フェアでは熊本の緑やSDGsなどがアピールでき、この半年間は街路樹再生委員会にとっても追い風となった。
吉村委員	緑化フェアは3年前から計画してきた。メインは花であるが、花を通じて県民に緑の大切さや育て方をアピールし、自分自身でやってほしいと訴えたかった。次は皆さんに来てもらい、緑や花はどういう役割を持つかを知ってもらい、6年前の地震の(支援の)お礼と復興のアピールをすることが重要であった。水サミットでも全国の方から花をみてもらい、やはり熊本は水と緑の都市だといってもらった。これから我々が、どういことをやって緑を守っていくかが重要だと感じた。
田中議長	水サミットでは天皇陛下と皇后陛下も地震のことを心配されていた。熊本の水サミットは2020年の予定であったが、6年後になり、今きていただいたのは意味があったと思う。宣誓をしてくれた高校生が考えている問題と世界の気候変動はつながっている。その中で熊本の水と緑を世界に知らせることができたのは大きい。街路樹再生委員会も安心安全が提供できる街路樹をつくっていくという面ではつながっていると思う。
松本委員	花博について、自分もよく花畑エリアにいった。緑と花で街歩きの楽しさを演出したのがよかった。各都市の共通認識(花と緑のあるところは安心安全)があり、コロナ禍で自粛生活が長かった中で出かけることができ、街歩きの楽しさを認識してもらったのは良かった。
田中議長	何気ない日常は大事だ。動植物園に学生といった。花と緑もすばらしかったが、花の手入れをしている人が多いことに驚いた。水やりなど、花は維持しないと守れないことを、気づいてほしい。
柴田委員	ワークショップの内容は公表されているのか。
事務局	第1回はHPで公表している。第2回は整理し次第公表する予定。

議事要旨

事務局	議事 ③熊本市域街路樹再生計画の素案について1 【第I期熊本市域街路樹再生計画改定版に基づき説明】
田中議長	追加項目に「補植の基準」とあるが、これは「適正管理の目標」というニュアンスではないのか。目次建てとして違和感がある。第2章で「対応基準」が書かれ、その次にくるところなので、「補植の基準」ではなく「適正管理の目標」とすべきではないか。

田中議長	p. 25 では伐採と一言も書いていないのがすっきりしない。「・・・2024 年までに実施し」は何を実施するのか分からない。必要なら切るのではないか。また、「・・・2029 年までに実施」も適正に管理していくことを実施するのではないか。きちんと書いた方がよい。
米村委員	田中議長の言われる通り、伝えることは文字にしてはっきり書いた方がよい。昨日もクスノキの枝（枝直径 15cm、長さ 3m）が縦向きに落ちてきてタクシーに凹みが出た。通常パトロールでは視距の悪さ等は目につくが、さすがに枝が落ちるのは予測がつかない。できれば、注意すべき事項があれば書いてほしい。
田中議長	書いてしまうとやらなければならないので難しい部分もある。 固有名称が出ている箇所があるが、「路線については別途指定する」のような記載の方が、柔軟に対応できる。 また、歴史的な謂れのある木だけでなく、景観的に素晴らしい樹木やその他の特別な配慮が必要な樹木についても、個別に考えた方が良いと感じた。
緒方委員	「安全安心（樹勢衰弱、樹木異常、幅員不足、路面異常、事故発生）に関わるものは 2024 年までに実施し」とは着手なのか完了なのか。また、視距・視認性や景観、管理に関するものは 2029 年が目標となっているが、2024 年に伐採してすぐに更新の手続きなのか、一旦伐採してしまってから更新の手続きなのか。
事務局	2024 年までの対応については「完了」を想定している。
田中議長	全体計画はどうするのか。切る時は何年かけて切るのか、切るだけでなく植えていくのはどうやっていくのか。後者（視距・視認性や景観、管理に関するもの）は安心安全と併行して実施していくことを想定している。
事務局	課題のある樹木は伐採となり、2024 年の完了を目指す。それ以外は、年数が経って衰弱するなど、更新していくべきものはその都度更新していく。重点区間の通町筋は、樹種の変更もあわせて更新となっているため、伐採と補植を並行してやっていく。
田中議長	計画なので、概ねの指針にはなると思う。
松本委員	問題のある樹木を伐採するのは当然であるが、その後に補植とある。もともとスケール感が合っていないから問題が起こる。それでも、同じ樹種を補植するのか、最初はちぐはぐになってもいいから樹種を変えていくのか、考え方を聞きたい。
事務局	更新についていえば、通町筋は重点区間として更新することにした。以前の委員会でも景観や街路のスケール感なども考える必要があるとご意見をいただいた。例えばどういう樹種がよいか、この委員会の中でも相談させてほしいと考えている。
田中議長	時代によっていいと思う樹種は変わっていく。温暖化で気候風土も変わっている。熊本らしさはクスノキであろうが、いつまで継続するかは、皆で考えていく必要がある。植樹との関係などの専門的なことは専門家が考え、その他のことは市民も一緒に考えていく。
松本委員	樹種の相談について。樹種を決めるには、成長した時の樹木の大きさ（植樹との関係）、安全性（幹周と比較して樹高が高くなる種は危険）、腐朽菌の抵抗性、経済的效果（気温上昇や洪水防止のために樹冠被覆率を高める）、最後に風景にあっているか、などの視点で慎重に決めるべき。今まで、景観が優先されていたため、いろいろな問題を引き起こしている。
田中議長	松本委員が言われた視点をもって検討していく。計画段階では要相談でいいと思うが、次の段階では、路線ごとに専門家に地域住民を加えて、納得してもらいながら決めていくべき。

議事要旨	
事務局	議事 ③熊本市域街路樹再生計画の素案について 【重点路線整備計画に基づき説明】
柴田委員	路線整備計画の段取りがよくわからないので、具体的に書いてほしい。2024年までに何を実施するのか、2029年までに何を実施するのか。整備計画と素案は分けて考えた方が良い。
田中議長	30年後のビジョンはいらないか。
緒方委員	熊本市としては、モデル地区として通町筋をあげ樹種更新等をする。他の大きくなった樹木については、どう適正に管理していくかが書かれていて、通町筋以外は樹種変更をするつもりはないという内容と理解している。モデル地区とそれ以外の路線をはっきりと分けて説明すればよく分かる。
田中議長	パブコメでもねじ曲がった解釈をされると困るので、市民にわかりやすくポイントを書くようにしてほしい。更新と適正な管理を分けて説明する。パブコメは書く人が少ないため、思わず意見を書いてしまうような説明資料にしてほしい。
事務局	緒方委員が言われた通り、今植えてあるイチヨウやクスノキについて、現在の計画期間の中での更新は考えていない。通町筋は全体的に整備するため、樹種変更も含めて考えていきたい。その先は路線として考えていくことはあるかもしれない。整備計画は、短期長期にやることを、分かりやすく修正する。
田中議長	皆様のご意見でいい資料になる。メリハリのある資料にして、パブコメでも意見を書きやすくなると思う。
松本委員	通町筋は具現化しつつある。その他は順次考えていくという中で、危惧することがある。第二高校前のクスノキなどは密になっているが、しのぎあい、相手の生長を抑えあっている部分もある。だからといって安易に間伐すると、逆に大きくなり根上り等が顕著になる。再生計画は間伐で完結するのではなく、50年先の長いビジョンも考え、樹種の変更も視野に検討していくべき。
田中議長	全部行政でやるのではなく、民間と連携してやっていくことも大切。Dxなども考えていきたい。
堤委員	警察の立場としては、道路の安全確保が最も大事。先日の産業道路の倒木事故では、周辺の主要道路が約8km渋滞し、復旧までに3時間ほどの時間を要した。街路樹が成長して横に広がり信号機や標識が見えなくなったり、落葉によって路面標示が見えなくなったり、油分の多いイチヨウの葉で自転車・バイクが転倒したりする。今後この計画を進める上では、安全面に配慮してほしい。
田中議長	交通安全も大切だが、全く緑がないのも市民は困るので、持続可能な形で管理していく。適切な緑を警察も一緒に考えていってほしい。 地震がまた起こると考え、その時に街路樹があつてよかったと言えるような計画にしたい。皆さんに揉んでいただき、よい計画になった。
吉村委員	色々な意見が出て計画の中身が濃くなった。街路樹の維持管理や育成をしっかりと考えてやらなくてはとつくづく感じた。伐採する街路樹に「こういう理由で伐採します。その後は植えます。」と1本1本看板をかけているものを他県でみかけた。熊本市も伐採木に対して丁寧な対応をしてほしい。
田中議長	冒頭、緑化フェアの話をしてもらったが、今までのやり方と違うやり方が評価されている。3箇所で行ったのが熊本らしいし、アピールの仕方もよかった。SDGsを考えると、水と緑を考えることは大切で、これに街路樹は直結している。今後も市民と一緒にやっていきたい。